Aichi Cancer Center News

50th anniversary

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第50号

平成26年11月発行

発 行
愛知県がんセンター
Tel. 052-762-6111㈹

10月4日（土）に愛知県がんセンター開設50周年記念式典をルブラ王山で行いました。

ご参加いただいた方々、運営にご協力いただいた方々のみならず、この50年間に愛知県がんセンターに関わられたすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。50年の歴史は重く、先人の残された輝かしい業績は愛知県がんセンターの誇りであり、貴重な財産でもあります。最近では、かつての輝きを失っているという向きもありますが、リーマンショック以降の緊縮財政の下で、成長戦略のための先行投資が困難であったことが一因であると思います。がんセンターが今後10年50年と輝き続けるためには高度先進医療を目指さなくてはなりません。がんセンターをより良くするために何をすべきかを常に考えてくれている帰属意識の高い職員は、がんセンターの宝です。この素晴らしい職員のモチベーションを保つためにも成長戦略の実現が必要です。50周年はその絶好の機会であると思います。今後とも益々のご協力を宜しくお願いします。

愛知県がんセンター
総長
木下　平

大村知事のあいさつ

がんセンター50年のあゆみの説明（篠田院長）

総長のあいさつ

受付の様子

50周年特別企画 ～がんセンター今昔～ 第6回

愛知県がんセンターは今年、開設50周年を迎えました。この節目にあたり、センターOBの先生方に在職当時のエピソードとセンターのこれからについて語っていただきます。第６回は森田皓三中央病院名誉院長です。

愛知県がんセンター中央病院 名誉院長
森田　皓三

専門分野：
放射線治療
所属学会団体：
日本癌治療学会、日本食道学会、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会

私は名古屋大学から昭和46年（1971年）４月に、愛知県がんセンターの公募に応じて、喜び勇んで放射線治療部に赴任しました。それには二つの大きな理由がありました。一つは、その当時国内で、放射線診断部と放射線治療（以下放治）部とが独立して運用されていたのは、大学を含めても、この病院のほかにはほんの数施設に過ぎなかったからです。もう一つは、現在放治技術の最先端であるIMRT（強度変調放射線治療）の先駆となった原体照射装置付きのリニアックが２台と、国内最大級の31MeVベータトロンを備えていて、その当時、日本で最も充実した放治設備とスタッフが揃っていたからです。それ以来、途中の２年間を千葉の放射線医学総合研究所（以下放医研）・重粒子医科学センターに出向した以外は、平成11年（1999年）３月の定年まで、四半世紀以上をこの病院で充実した放治医生活を送ることができました。

愛知県がんセンターでは開院以来、どの科で診療を受けても、患者記録（カルテ）は個々の患者さんに一つです。がんに罹患した患者さんを中心として、各領域の医療スタッフが知恵を出し合って診療に携わるという「がんに対する集学的治療」が、その当時から当たり前のように実施されていました。このシステムは、がん治療の三本柱のひとつと言われながらも、従事するスタッフが手術グループあるいは化学療法グループと比較して、質・量ともに格段に少ない放治グループにとってはとてもありがたいことでした。いわば、私たち放治グループは、各科の医療スタッフに育てられながら、個々の患者さんに対するがん治療の中での「放治の役割」を常に考えることができたと思います。

赴任早々に現在のがんセンター中央病院の近くに転居しましたので、退職後の今でもかなり頻繁にがんセンターに伺っています。昨年は「外来化学療法センター」の開所式にも出席しましたし、今年はがんの治療に不可欠な「緩和ケアセンター」が地域医療連携・相談支援センターと共に設置されました。当がんセンターが今もこの地方のがん診療の中核として、新しい方向に向かって力強く歩んでいることを感じます。

将来の放治部門の希望としては、私が２年ほど働いておりました放医研で開始されました「重粒子線（重イオン線）治療」を、ぜひとも当がんセンターでも始めてほしいと思います。放射線難治性がんにも治療効果が高く、「究極の放治」といわれるこの設備は、最近神奈川県がんセンターでも建設が始まっています。当がんセンターが設備面でも運用面でも、さらに一段の発展をされますように、大きな期待を寄せています。

50周年特集① 開設50周年記念特別企画公開講座開催

今年度４回目となる公開講座は開設50周年記念特別企画といたしまして、講演「肺がん診療の現在と未来～肺がんサバイバー“いのちの落語”～」を９月６日（土）に当院の国際医学交流センターで開催しました。

第１部では「肺がん治療の最前線」というテーマで当院及び研究所の部長３名を講師として、肺がんの予防や内科・外科治療の現状について紹介しました。それぞれの講師は、難しい医療の内容を一般の方々に分かりやすく丁寧に説明し、講演後の質疑応答でも数多くの質問に対し、適切な回答がされていました。講演に参加された皆さんには、肺がん治療の最新の知識を深めるよい機会になったことと思われます。

50周年特集②

日本対がん協会賞受賞！

9月5日（金）に福岡市で開催された「がん征圧全国大会」において、愛知県がんセンターが日本対がん協会賞（団体）を受賞しました。がんセンターとして団体部門で受賞したのは愛知県が全国初（県立、国立含む）であり、当センターのがん予防に対する永年にわたる功績が改めて認められ、今年で50周年を迎えた当センターにとって大きなはなむけともなりました。

表彰状

愛知県がんセンター殿

貴団体は永年にわたりがんの予防や征圧のために尽くされ大きな業績を残されました

ここに日本対がん協会賞を贈りその功績を称えます

平成二十六年九月五日

公益財団法人日本対がん協会

会長 垣添忠生

～日本対がん協会賞とは～

日本対がん協会が、がん征圧のための運動、事業、研究、特に「予防活動」の第一線で顕著な功績を上げた個人及び団体に与える賞で、がん征圧運動の一層の高揚を図ることを目的としたものである。毎年9月に開催される「がん征圧全国大会」において表彰される。

第2部では特別企画の目玉である肺がんサバイバーで、いのちの落語家・作家の樋口強氏をお招きしました。樋口氏は全国各地で自らの体験を基にした肺がんに関する講演と落語を行っておられ、巧みな小話で会場を笑いの渦に包み込んでいました。

今回の公開講座は、第1部・第2部合わせて約300名という大勢の方にご来場いただき、名古屋市やがんセンター近隣のみならず、県下各地、さらには他県から来られている方も見えました。「講演がとても分かりやすかった」「落語が面白かった」「こういったイベントにまた参加したい」という声が多く聞かれ、大好評の内に幕を閉じることができました。

センター探訪 ⑥　理容室新規オープン

９月29日（月）に理容室「ヘアサロン　こもれび」が、病棟１階にオープンしました。

がんセンター内にあるヘアサロンということで、シャンプー・カット・カラーリング・パーマという一般的なサービスだけでなく、病室への出張カットや、ケア帽子・医療向けウィッグの取扱い、またメーカーを問わずウィッグの調整を行っています。

理容室へは、点滴スタンドや車椅子でも安心して来ることができ、状況に応じて専用の移動式理美容車椅子を用いて病室への送迎も可能です。

室内は、カーテンで仕切ることでプライベートなスペースを確保できますので治療中の方も安心して利用することができます。また、外見支援で気持ちを少しでも癒せるように、最近流行している「まつ毛・眉毛美容液」やトリートメントタイプの「白髪染め」、メイク・ネイルケアなども取扱い、明るくてきれいな空間でおしゃれを楽しむことで病院内であることを忘れさせてくれます。

利用可能時間は、平日の朝９時から夕方６時までです。ヘアチェックや頭皮ケアのアドバイスも行っていますので、患者さんだけではなく、理容室「ヘアサロン　こもれび」をどうぞご利用ください。

スタッフの紹介

中央病院　看護部

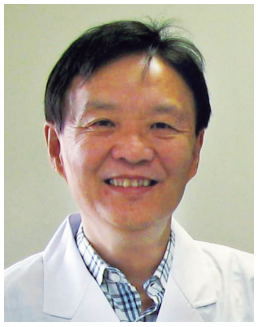
お互い様精神で職員を大切にします！

看護部には看護部長１名、副部長４名、看護師長15名がいます。看護師長の仕事は部下の教育と統率、他部門との協調、物品管理、看護の質向上など多岐にわたります。なかでも毎月の勤務表作成には時間とエネルギーを使います。個々の看護実践能力に応じた組み合わせ、私生活の予定を考慮し、尚且つ患者さんにとって安全で安心できるシフトを作成しなければなりません。ここ数年、育児支援制度を活用して働き続ける職員が多くなり、働き方も時間も多種多様です。多様な勤務形態を受け入れ、お互い様精神で職員が大切にされる看護部組織を目指し、今後も活動を進めていきます。

1列目左から：亀島副部長、折笠副部長、高木看護部長、若杉副部長、榊原副部長、藤井師長
2列目左から：久保坂師長、小澤師長、戸崎師長、日置師長、西尾師長、杉本師長
3列目左から：安田師長、翠師長、小原師長、濱口師長、黒河師長、戸田師長、山崎師長、中山師長

中央実験室の業務の紹介

研究所 ～中央実験室～



中央実験室長
稲垣　昌樹

中央実験室では現在、室長（兼任）１名、研究員１名、研究技師１名、非常勤嘱託員４名および動物管理の委託スタッフで、研究所全体の研究活動や臨床研究を円滑に進めるために必要な種々のサービス業務を行っています。

業務内容としては、１．共同利用機器の整備・運用およびセキュリティーシステムなどの施設・設備の維持管理、２．RI実験施設の維持管理・運用および危険物の管理、３．実験動物飼育施設の維持管理および運営の補助業務などです。

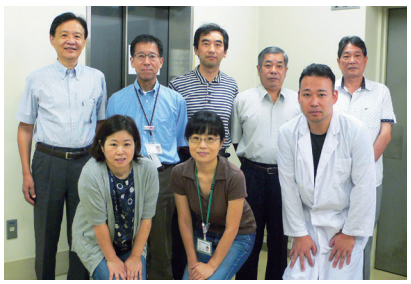
共同利用機器の中で、DNAシーケンサーは、研究者から依頼された試料をまとめて装置にかけています。年間で約１～1.5万サンプルを解析しており、ほぼ毎日運転しています。さらに、昨年度には、長年要求していた高速自動セルソーター（図１）が整備されるなど、共同利用機器の維持・管理業務は年々増加しています。また、共同機器の利用を円滑に行うために、テクニカルセミナーも随時開催しています。実験に使用する水の供給システムや、セキュリティーシステムなどの施設、設備の維持・管理・適切な更新など、運営に支障を来さないように常に目を光らせています。

一方、RI実験施設の維持管理・運用は、施設の管理のみならず、法律に基づいた手続き、RI実験従事者の教育・訓練および健康管理など、多岐にわたり、高度な専門性を必要としています（図２）。さらに、中央病院の放射線関連書類の作成およびがんセンター全放射線従事者の管理なども行っています。

また、実験動物飼育施設の維持・運用は、器具の洗浄、飼料の滅菌などの実務は業者に委託しています。中央実験室では、その管理および青木部長（分子病態学部）が統括している動物実験施設管理運営委員会と協力して動物飼育室のルールに基づいた円滑な利用を推進しています。

（図1）高速自動セルソーター

（図2）RI管理システム



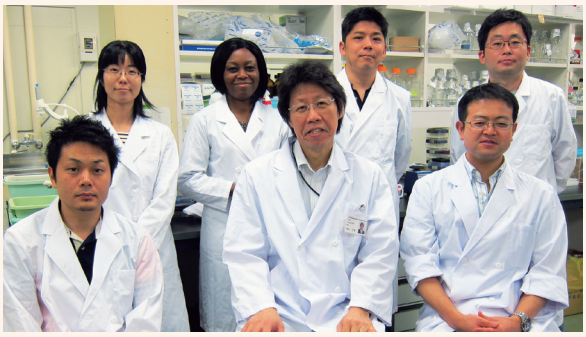
前列左から、谷川（動物補助）、篠原（機器運用補助）、西口（動物補助）
後列左から、稲垣（RI関連・統括）、箕浦（RI関連）、組本、中村（機器管理）、西川（機器運用補助）

研究員の紹介

研究所　分子病態学部

がんは、我々の体を構成する細胞に遺伝子の異常が積み重なってできます。分子病態学部では、がんがどのように発生し、さらに悪性化して転移するのか、大腸がんや肺がんを発症する遺伝子改変マウスを用いて研究しています。

また、「がん悪液質」の研究にも取り組んでいます。「がん悪液質」は、がん患者さんが栄養不足という原因以上に体が痩せすぎたり、筋肉や脂肪が衰えていく状態のことを指しますが、その仕組みはよく分かっていません。がんの発生・悪性化、あるいは「がん悪液質」の発症に重要な役割を果たす分子を探し出し、それらの働きを抑えるような薬を見つけることによって、新しいがん治療法の開発を目指しています。



前列左から：前田亮リサーチレジデント、青木正博部長、藤下晃章研究員
後列左から：梶野リエ研究員、フローレンス・オリム・エネリサーチレジデント、小島康主任研究員、佐久間圭一朗主任研究員

がん患者さんの相談・支援とシームレスな医療連携

中央病院 ～外来部～

外来部長
堀尾　芳嗣

愛知県がんセンター中央病院の外来初診患者さんの地区別割合は名古屋市約４割、愛知県内約3.5割、岐阜県と三重県それぞれ約１割、その他（長野県、静岡県、滋賀県、和歌山県等）約0.5割です。広範なエリアからの受診理由の１つは、当院におけるがん診療が安心・安全で高度な診断および治療（手術/放射線治療/薬物治療/先進的治療等）であることへの信頼だと考えています。

外来部が統括する外来診療において今年度特筆すべきことは、４月から病院組織上、４年前より一体運営されていた相談支援室（患者・家族相談支援）と退院調整室（後方医療連携）に、新たに医療連携室（前方医療連携）を加え、地域医療連携・相談支援センターが設置されたことです。場所も、病院の目抜き通りとも言える外来棟２階中央部の旧化学療法センター跡地に開設され、相談室も大小５つあり、利便性が大幅に向上しました。また、緩和ケアセンターも併設されており、がん患者さんの支援と医療連携施設との間をシームレスでつなぐ不可欠の部署として名実ともに位置づけられました。

初診予約は、電話依頼日の翌々日以降の最短日でとれるようにしました。また緊急時の初診要請時も対応できるよう予約システムの改善も進めています。今年度、新たに発足した地域医療連携推進部会の部会長の山雄健次消化器内科部長のご尽力で、足立昌由千種区医師会長を代表世話人とした中部地区がん医療研究会が立ち上がり、８月２日に諸団体との共催で第１回中部地区がん医療連携学術講演会がメルパルク名古屋で行われました。今後、医療連携がさらに推進されることが期待されます。

地域医療連携・相談支援センター／緩和ケアセンター

広がりつつある医療連携の輪

診療医の紹介

中央病院　血液・細胞療法部

血液・細胞療法部では悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病などの血液がんを中心とする血液疾患の診療を行っています。スタッフとレジデントの６名が最新の研究成果に基づく高度な診断を他科との連携によって進めています。また特に難治性血液疾患に対しては造血細胞移植を含めた最先端の治療法を行っています。さらに当部では新たな治療法の開発に力を注いでおり、JCOGやJALSGなどによる多施設共同研究や新薬の開発治験を積極的に推進しています。

前列左から、山本一仁医長、木下朝博部長、田地浩史医長
後列左から、樋口悠介レジデント、加藤春美医長、村上五月レジデント、平野大希レジデント（現名古屋医療センター）

CLIMB夏休み特別企画―One Day Kids Program―

中央病院 ～緩和ケア部～

緩和ケア部長
小森　康永

当院では、がんの親を持つ子どものサポートプログラムとして、平成24年よりCLIMB（クライム）プログラムが取り入れられました。CLIMBプログラムとは、子どもが本来持っている力を引き出し、親ががんであることの不安な気持ちやストレスに対処することができるような手助けを行うサポートグループです。このプログラムは心理療法ではなく、レクリエーションを通して子どもたちが交流を持つ中で、気持ちを共有しながら楽しんで参加できるものとなっています。このプログラムの夏休み特別企画として、７月29日に１日完結型の企画を考えました。子どもたちはとても敏感にお父さんお母さんの変化を感じ取ります。しかし、病気のことを伝えるのは大人同士でも難しいことであったりします。そこで「がんってなあに？」というちょっとした勉強会をまず行いました。がん細胞をレゴブロックに例えたり、放射線治療をレーザービームに例えたりし、子どもにできるだけわかりやすく伝えます。そして、お父さんお母さんが頑張って治療している病院の中を探検します。手術室や放射線治療室では色んな医療器具に興味津々でした。また、外来化学療法センターで点滴ごっこを行いましたが、患者役となってもらったクマのぬいぐるみに優しく声をかける姿がありました。子どもたちにとって「教えてもらえないこと・話せないこと」はとても大きな不安となります。２年前に見直されたがん対策推進基本計画の中には、子どもたちへの健康教育として「がんの教育」が掲げられています。がんと向き合うお父さんお母さんの不安もサポートできる活動を今後も目指していきます。

薬局にて粉薬の調剤を見学する様子。

給食の厨房を見学する様子。

CLIMBプログラムに携わる緩和ケア認定看護師

診療医の紹介

中央病院　頭頸部外科部

頭頸部外科では主にくち（舌、歯肉、口蓋）のど（咽・喉頭）、はな（鼻・副鼻腔）、みみ（外・中耳）、唾液腺、甲状腺、頸部食道などの頭頸部の腫瘍を中心に治療を行っております。治療は手術、放射線、抗癌剤が中心となります。

頭頸部癌治療の特徴として、手術においても放射線治療においても、飲み込みや発声の障害、それに伴う生活の質の低下が起こる可能性があります。そこで、当科では癌の根治性を損なうことなく、生活に必要な機能を維持できるよう、それぞれの患者さんに合わせ最善の治療を選択しております。また選択した治療をより良質な形で提供できるよう日々努力しております。

頭頸部は少し複雑で理解しにくい領域かもしれません。気になることがあれば、お気軽にお声かけください。

前列左から
鈴木秀典医長、寺田星乃医師、的場拓磨医師、長谷川泰久部長、花井信広医長、都築秀典医師
後列左から
西川大輔医長、澤部倫医師、小澤泰次郎医長（7月で退職）、中多祐介医師、平川仁医長、向山宣昭医師

2014年研究所主催サマーセミナー「高校生基礎実験体験講座」

７月29日（火）に毎年恒例の高校生基礎実験体験講座をがんセンター研究所主催で行いました。今年は12名の県下の高校１年生～３年生の男女生徒の参加をいただきました。今年の実習テーマは「がん細胞はくっついて増える！～細胞接着装置を観察しよう～」というキャッチフレーズで、がん細胞同士が集団にまとまって増殖をする際に必要とされている細胞表面の接着分子e-カドヘリンを蛍光染色で染め出して顕微鏡で観察する内容でした。参加した生徒たちは自分の目でがん細胞の性状を実際に確かめたり、空き時間を利用した研究所内の見学を行い、がん研究の現場を研究員一同と楽しく体験でき、感動を持ちつつ好評のうちに無事実習を終えることが出来ました。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日　**午前9時00分～午後7時00分**
電話	０５２－７６４－９８９２　（直通）
ＦＡＸ	０５２－７６４－９８９７　（24時間稼働しております。）
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	**午前8時30分～午前11時30分**（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）
外来診療担当医一覧	毎月１回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用　名城線「自由ヶ丘駅」２番出口から徒歩７分
市バス利用　基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩４分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約１０分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約１５分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約１０分

※詳しくはホームページをご参照ください。

愛知県がんセンター　Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号　ホームページ http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

愛知県がんセンター　検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。